

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	愛知県津島市薬茱町字綿掛55番地		
自己評価作成日	平成27年 1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年 6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JivjovovCd=2392700023-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JivjovovCd=2392700023-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出を多く取り入れたり、様々なボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。一人一人の自信の持てる事を見つけ、一緒に言ったり、頂いたお花を一人で生ける方には任せてしまったり、饅頭作りでは館を皮で包みこむのが職員より上手い方もいて、そんな場面では頼んだり任せたりで、過剰に手を出し過ぎない事も大切と心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年を経過した真新しいホームで、母体法人の関連事業所(病院・老健・デイサービス)と共に、医療・看護・介護を行う総合施設の一翼を担っている。利用申込者に対して、最適なサービスが提供できる施設を判断し、状況に応じて関連施設間で転出入が行われている。利用者・家族はもとより、職員にとっても不安なく過ごせる仕組みが出来上がっている。  
 昨年就任した管理者は、開設以来当ホームで介護業務に従事しており、内情に精通し、職員の信頼も厚い。理念もわかりやすい言葉に変えて作り直し、「地域・家族との結びつきを大切に、生き甲斐を持ち、自立した生活の実現を支援する」を定めた。「職員が生き生きと楽しく支援ができることは利用者の笑顔に繋がる。伸び伸びとやりがいのある職場作りが大切」と、熱意ある言葉が聞けた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念又、“グループホームぬくもり”の理念がある。	本年度の目標達成計画に掲げて、ホーム理念の見直しを行った。「地域・家族との結びつき・・・生き甲斐を持って生活・・・自立した生活の実現・・・」を新たなホーム理念として定め、実践に向け努力している。	分かりやすい言葉に変え、理解し易い理念が出来上がったが、管理者だけの想いに終わらないよう、職員間で共有して浸透を図る努力を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの幼稚園と2・3回／年交流している。毎月近くのお寺さんが来て、利用者さんと一緒にお経を読み、お話を聞かせていただいている。	近隣寺院の住職訪問によるお経や法話が継続しており、幼稚園との交流も続いている。福祉学校の実習や職場体験の受け入れも積極的に行なっている。敬老会の祝い品も届き、地域の一員として認められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議等で地域の方にも認知症のことを知ってもらい、会議に出た方から他の方へ認知症のことが伝わっていかれたらと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見を参考にして、サービスの向上が出来るように努めている。	行政、地域包括支援センター、民生委員、地区代表、家族等の参加を得て、年6回開催している。「手拭いは衛生上、布タオルから紙式に変更」との意見を検討し、利用者のタオル畳み作業は残し、紙との併用とした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市高齢課の職員が出席しており、その時々状況を伝えて、足りないところを教えて頂いている。	運営推進会議には、市担当課職員が出席しており、ホームの実情は伝わっている。職員(前管理者)が市の依頼で認知症予防教室の講師として携わっている。講座を機に、ホームの利用者となった事例があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが利用者様の状態を把握し状況に応じて対応するようにしている。	日中は玄関を含め内扉、ユニット間は常に開放しており、利用者は自由に行き来できる。法人主導の研修においても「身体拘束」を取り上げており、管理者・職員は共に身体拘束の弊害を理解している。言葉による拘束にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言や暴力だけが虐待でなく、放置や無視なども虐待である事などを伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が入居されている事もあり、職員が統一した対応が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には、最近の状況を伝えるようにしている。又運営推進会議にはご家族の方に出席頂き、要望や意見を頂く様にしている。	運営推進会議では、家族から積極的な意見・要望が出ている。「担当職員の顔が分からない？」との意見から、玄関に全職員の顔写真を掲示した。9月に初めて「家族会」を開催し、家族の本音を聞く良い機会となった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等や必要時に当日居る職員で話し合い、申し送りノートを活用して伝達している。	ユニット毎に随時ミーティングを行っており、職員ヒアリングにおいて、「管理者と話せる機会が増えた」との声があった。「おやつ飲み物メニューを増やしたい」との職員提案はすぐに実現された。	目標達成計画に掲げ、ミーティング開催回数を増やして職員間のコミュニケーションを強化した効果は大きい。今後においても職員の声を聞き出す努力を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を積極的に利用し、その後伝達伝習を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	津島市事業者交流会(1回/年)やグループホーム連絡協議会からの職員交流会に参加し、質の向上に努めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み表を記入していただく段階で、困っている事や要望を聞く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み表を記入していただく段階で、困っている事や要望を聞く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで良いのか、併設の老健施設や病院等の利用も含めて検討し、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、したい事、出来ない事、したくない事を把握し、家事等や生活の部分での支援をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、最近の状況や出来事を伝えるようにして、家族関係の維持を図れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、親類や友人が来やすい雰囲気作りに努める。	旅行仲間だった友人が訪問し、年賀状での関係継続を支援している。縫い物が得意な利用者が縫い物を手伝ったり、新聞を読む等の習慣の継続も含め、利用者本人が大事にしていることを尊重して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立していそうな時は、声掛けたり誘導する等の働きかけを行なうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した場合で、面会等や必要に応じ付き添いを頼める先等との連絡調整等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居申し込み表を記入していただく段階で、今までの暮らし方や今後の希望を聞く様になっている。	自己表現力が徐々に低下していく中、思いや要望の把握には苦労がうかがえる。職員から、「何でも話しかける、表情を観察する、さりげなく様子をうかがう等から意向や想いを汲取っている」との言葉があった。	利用者個々の意向や想いを的確につかみ、その実現のためにケアプランがあると考えられる。意向の把握に一層の努力を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み表を記入していただく段階で、今までの暮らし方や生活状況等を聞く様になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録があり、毎日の様子を記入する事で、把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間や家族との話のなかから、本人にとっての大切な課題を見つけるようにしている。	特殊事情がない限り、概ね1年毎に更新している。担当者会議を開き、職員に意見を聞いて原案を作成し、利用者・家族に説明して完成させている。個々の介護目標を一覧にした日々のチェック表を用意している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録があり、毎日の様子を記入する事で、把握するようにし、職員間での情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化でニーズも変わってくるので、サービス計画の内容をその都度見直し、変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広い敷地内の散歩等を積極的に行い、気分転換を図りやすくしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同伴の受診には、かかりつけ医への文書を作成して、最近の状況が分かりやすく伝えるようにしている。	殆どの利用者は系列病院をかかりつけ医に選んでいる。定期健康診断は年1度であるが、何らかの治療を受けている利用者が多く、定期的に受診して健康チェックを受けている。眼科・皮膚科等は家族対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の病院と医療連携を取っており、看護師が1回/週は必ず来所し状態の把握に努めている。又変化があった時の連絡も密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態把握がしやすい様文書作成したり、それぞれの病院の相談員と早期～連絡を取り合う様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、入院が必要となる時期や入院先等について、本人や家族の希望を聞きながら、調整を図る様に努めている。	利用契約時に重度化・終末期におけるホームの方針を説明し、同意の署名を得ている。入浴・食事・ADLの状況を見て判断し、系列病院・老健へ移行したケースもある。過去、救急搬送中に心肺停止となった事例があったが、ホームで看取った事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内に病院があり、看護師等との連携で対応出来ているが、職員全体の緊急時対応力にはさらなる研修等が必要と感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同法人内の病院が地域の避難場所にもなっており、隣接の老健へ避難する事になっている。	年2回、消防署の協力の下に避難・通報・消火訓練を行っている。ホームは平屋建てであるが、系列施設が隣接しており、随時協力を仰ぐことができる。災害発生時の不安は最小限に食い止められる安心感がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等での周知で、言葉かけやトイレ・入浴におけるプライバシーの保護を心がけるようにしている。	無施錠を貫いているため、居室・トイレ・風呂等への入室には必ず声かけやノックを励行し、プライバシー確保に配慮している。職員から、「入浴時の羞恥心の配慮にタオル掛け等を実践している」との話が聞けた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかけは分かりやすいようにゆっくりはつきりやさしく話す様にする事で、本人の気分を害さずに思いを表しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物等の外出では、本人の希望で出かける事もある。毎日を退屈に過ごすのではなく、少しでもはりの持てる日々出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等には、お化粧品して出かけるようにしたり、服装を普段と変えてみるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な家事を職員と一緒に見守りながら出来る様になっている。	隣接老健の栄養士作成の献立を基に、職員が調理している。月1回のおやつ作りや行事食は利用者と共に行なっている。中庭の菜園で採った野菜を食材に活用し、職員も共にテーブルに着いて食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて支援し、記録を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状態や力に応じたケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の排泄パターンに合わせた誘導や介助を行ない、濡れる前にトイレに行けるようにするとともに、濡れている時間を少なくして済むようにする支援をしている。	排泄チェック表に個々の排泄状況を記録して排泄パターンを読み取り、トイレでの排泄継続を支援している。職員ヒアリングで、失禁の続く利用者の誘導間隔を調整することで改善された事例が聞けた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	積極的に散歩へ出かけたり、食材にらっきよを取り入れるなどして便秘にならない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は毎日としているので、声かけに希望がなければ、時間や日にちをずらす事で平対応している。	両ユニットをまとめて入浴提供を行っており、基本的には週3回の入浴を実践している。拒否のある利用者には無理強いせず、職員を代える、言葉の掛け方を変える等、利用者に合わせて誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室とリビングの往来や、リビングのソファで過ごす時間の確保など、心地よく過ごせるようにはいりよしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の状態の変化だけでなく、薬が変わった時などは申し送りノートへも記入し、職員全員で特別に気をつける事の把握が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、できる事、今までの生活の中でやってきた事などを知り、張りのある生活が出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や戸外でのおやつ時間を持つなど。季節により、つくし採り近くのお寺・幼稚園訪問など。遠出ではお花見や地域でのイベントなどその時々における利用者の希望を入れながら出かけるようにしている。	総合福祉施設の一角にあり、隣接老健に入所中の奥様に会いに行く利用者もいる。誕生日外出、2ヶ月に1回の遠出外出には季節に応じて、桜・藤・イルミネーション・水族館等の見物を実施している。人員面で制約は多いが、外出要望にはできるだけ応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かることになっているが、自分で所持したい希望も考慮して家族には、なくなっても良い範囲でとの説明の元で、自分で所持し孫に小遣いをあげる等している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族間の交流が出来るよう、利用者がかけ易く又家族もかけやすい雰囲気や言葉かけを行っている。かけたい時やかかってきた時は、コードレス電話を持って行き、リビングや自室で気兼ねなく話が出来ていると思っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に椅子を置き、疲れたりちょっとしたひと時に座って外の畑を眺められるよう、又リビングには花を生けたり、犬や金魚を飼う等で家庭的な空間になっていると思います。	広いリビングに余裕があるため、食事時以外は両ユニットの利用者は合同で過ごしている。壁面には職員の描いた似顔絵や、利用者の書いた習字、外出時の写真を飾って潤いを持たせている。日当たりは良く、静かで落ち着いた環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席や長ソファーなどを設置して、リビングの中でも据わる場所を移動出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、自宅で使用していたものを持参頂く様に勧めている。仏様を持参している方もいる。	約8畳の居室は、収納箱、姿見、籐椅子、机、マッサージ器、西洋人形等、利用者の大切な品々が持ち込まれており、居心地良く過ごせるように工夫している。使い古した家具類も見られるが、真新しい家具類も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に設置してあるポータブルトイレが理解しにくい方に、文書で「トイレです。使ってください」と書いた張り紙をそばに置くようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	愛知県津島市荻苅町字綿掛55番地		
自己評価作成日	平成27年 1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年 6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2392700023-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2392700023-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 2月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

外出を多く取り入れたり、様々なボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。一人一人の自信の持てる事を見つけ、一緒に行ったり、頂いたお花を一人で生ける方には任せてしまったり、饅頭作りでは餡を皮で包みこむのが職員より上手い方もいて、そんな場面では頼んだり任せたりで、過剰に手を出し過ぎない事も大切と心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念又、“グループホームぬくもり”の理念がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの幼稚園と2・3回／年交流している。毎月近くのお寺さんが来て、利用者さんと一緒にお経を読み、お話を聞かせていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議等で地域の方にも認知症のことを知ってもらい、会議に出た方から他の方へ認知症のことが伝わっていかれたらと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出した意見を参考にして、サービスの向上が出来るように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市高齢課の職員が出席しており、その時々状況を伝えて、足りないところを教えて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが利用者様の状態を把握し状況に応じて対応するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言や暴力だけが虐待でなく、放置や無視なども虐待である事などを伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が入居されている事もあり、職員が統一した対応が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には、最近の状況を伝えるようにしている。又運営推進会議にはご家族の方に出席頂き、要望や意見を頂く様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等や必要時に当日居る職員で話し合い、申し送りノートを活用して伝達している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を積極的に利用し、その後伝達伝習を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	津島市事業者交流会(1回/年)やグループホーム連絡協議会からの職員交流会に参加し、質の向上に努めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み表を記入していただく段階で、困っている事や要望を聞く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み表を記入していただく段階で、困っている事や要望を聞く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで良いのか、併設の老健施設や病院等の利用も含めて検討し、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、したい事、出来ない事、したくない事を把握し、家事等や生活の部分での支援をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、最近の状況や出来事を伝えるようにして、家族関係の維持を図れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、親類や友人が来やすい雰囲気作りに努める。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立していそうな時は、声掛けたり誘導する等の働きかけを行なうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した場合で、面会等や必要に応じ付き添いを頼める先等との連絡調整等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居申し込み表を記入していただく段階で、今までの暮らし方や今後の希望を聞く様になっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み表を記入していただく段階で、今までの暮らし方や生活状況等を聞く様になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録があり、毎日の様子を記入する事で、把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間や家族との話のなかから、本人にとっての大切な課題を見つけるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録があり、毎日の様子を記入する事で、把握するようにし、職員間での情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化でニーズも変わってくるので、サービス計画の内容をその都度見直し、変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広い敷地内の散歩等を積極的に行い、気分転換を図りやすくしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同伴の受診には、かかりつけ医への文書を作成して、最近の状況が分かりやすく伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の病院と医療連携を取っており、看護師が1回/週は必ず来所し状態の把握に努めている。又変化があった時の連絡も密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態把握がしやすい様文書作成したり、それぞれの病院の相談員と早期～連絡を取り合う様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、入院が必要となる時期や入院先等について、本人や家族の希望を聞きながら、調整を図る様に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内に病院があり、看護師等との連携で対応出来ているが、職員全体の緊急時対応力にはさらなる研修等が必要と感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同法人内の病院が地域の避難場所にもなっており、隣接の老健へ避難する事になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等での周知で、言葉かけやトイレ・入浴におけるプライバシーの保護を心がけるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかけは分かりやすいようにゆっくりはっきりやさしく話す様にする事で、本人の気分を害さずに思いを表しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物等の外出では、本人の希望で出かける事もある。毎日を退屈に過ごすのではなく、少しでもはりの持てる日々出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等には、お化粧品して出かけるようにしたり、服装を普段と変えてみるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な家事を職員と一緒に見守りながら出来る様にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて支援し、記録を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状態や力に応じたケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の排泄パターンに合わせた誘導や介助を行ない、濡れる前にトイレに行けるようにするとともに、濡れている時間を少なくして済むようにする支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	積極的に散歩へ出かけたり、食材にらっきょうを取り入れるなどして便秘にならない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は毎日としているので、声かけに希望がなければ、時間や日にちをずらす事で平対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室とリビングの往来や、リビングのソファで過ごす時間の確保など、心地よく過ごせるようにはいりよしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の状態の変化だけでなく、薬が変わった時などは申し送りノートにも記入し、職員全員で特別に気をつける事の把握が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、できる事、今までの生活の中でやってきた事などを知り、張りのある生活が出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や戸外でのおやつ時間を持つなど。季節により、つくし採り近くのお寺・幼稚園訪問など。遠出ではお花見や地域でのイベントなどその時々における利用者の希望を入れながら出かけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かることになっているが、自分で所持したい希望も考慮して家族には、なくなっても良い範囲での説明の元で、自分で所持し孫に小遣いをあげる等している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族間の交流が出来るよう、利用者がかけ易く又家族もかけやすい雰囲気や言葉かけを行なっている。かけたい時やかかってきた時は、コードレス電話を持って行き、リビングや自室で気兼ねなく話が出来ていると思っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に椅子を置き、疲れたりちよつとしたひと時に座って外の畑を眺められるよう、又リビングには花を生けたり、犬や金魚を飼う等で家庭的な空間になっていると思います。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席や長ソファーなどを設置して、リビングの中でも据わる場所を移動出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、自宅で使用していたものを持参頂く様に勧めている。仏様を持参している方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に設置してあるポータブルトイレが理解しにくい方に、文書で”トイレです。使ってください”と書いた張り紙をそばに置くようにしている。		